

## 一般財団法人 印刷図書館 2021年度 事業計画書（案）

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

### 概況

2019年12月、中国の武漢市にて初めて新型コロナウイルス感染症が検出されてからはや一年、「With コロナ時代」となり、世界各国で様々な変化が訪れました。日本も例外ではなく、経済から日常生活に至るまで大きな制約を受け、印刷業界においてもその影響は免れず、厳しい状況下にあります。印刷図書館でも、政府による緊急事態宣言発令を受け、2020年3月30日から5月31日までの約2ヶ月間を休館し、その後感染拡大防止対策に努め、6月に再開するも利用者や維持会員の減少など、大きく影響を受けています。

また、電子図書館やデジタル教科書の普及促進など、資料・情報のデジタル化が推奨されていく中、現存する紙の資料をどう保存し、利活用していくかを定め、実践していくことは印刷図書館の担う大きな役割の一つです。

コロナ禍により、印刷図書館を取り巻く環境が大きく変わる中で、印刷業界における専門図書館として、2021年度も「印刷文化に貢献する図書館」をめざし、整備充実の強化に努め、日本印刷産業連合会や外部関係機関との連携を継続し、図書館活動の活性化を図ってまいります。

## 事業計画

### I. 図書館基本事業

#### (1) 図書館運営事業

- ・ 専門図書館としての一般公開及びサービス
- ・ 図書・資料の収集、整理
- ・ 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- ・ 関連機関との相互協力

#### (2) 広報活動事業

- ・ 受入れ資料のデータベース化
- ・ インターネットへの蔵書データの更新作業
- ・ ホームページを通しての新刊情報の紹介
- ・ ホームページを通しての財団活動報告
- ・ 「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動

#### (3) その他の事業

- ・ 所蔵する印刷文化財の貸出等

### II. 重点テーマ

#### 1. 専門図書館としての資料保存環境の整備の継続的推進

デジタルメディアが普及し、パソコンやスマートフォン等で様々なコンテンツを誰でも気軽に入手し、楽しめる時代へととなりました。その反面、情報の入手手段や媒体が多岐に渡るようになったことで、より一層情報を精査し、取捨選択しなければなりません。

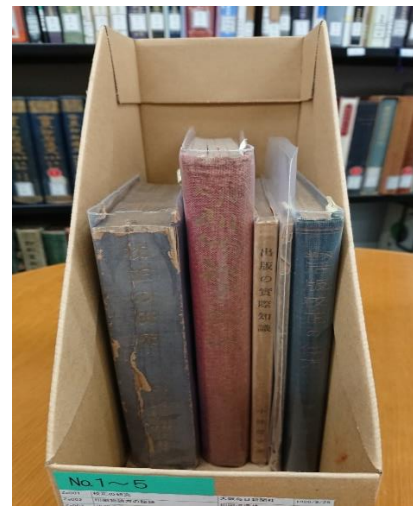
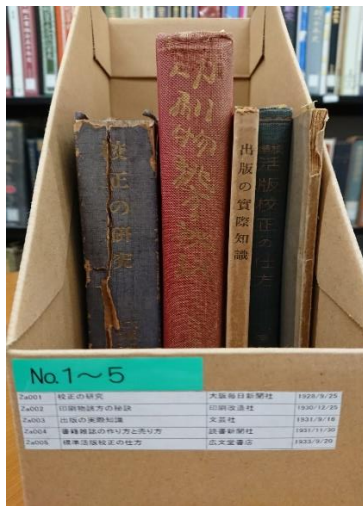
そのためにも大元となる情報そのものを長期的に保存することが重要であり、利用者の利便性を考えデジタル（データ）とアナログ（紙）を併存していくことが必要となります。

印刷図書館には近代印刷産業の黎明期から、現代の多様化する印刷産業の活動を俯瞰的に閲覧できる150年分の史料が保管されており、貴重な印刷文化資料を多く所蔵しています。そのため、これらを引き継ぎ、後世に残していくためにも所蔵する資料の保存方法を見つめ直す必要があります。

現在、コリブリシステムを活用した簡易ブックカバーを作成※1し、劣化が著しい資料を対象に優先して使用※2していますが、保存されている資料は、厚みのある資料から一枚ものなど様々な形態があるため、資料の形態・環境に合わせた保存容器を検討・導入し、保存を進めてまいります。



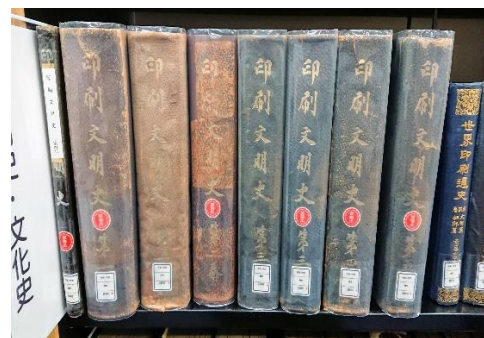
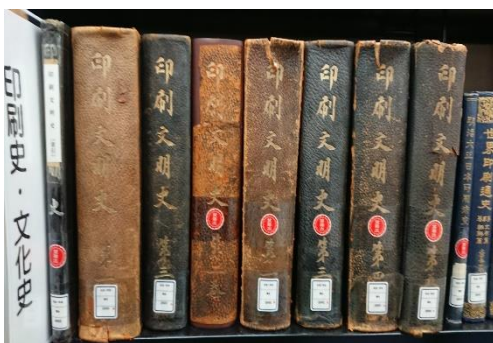
(※1 コリブリシステムによる簡易ブックカバー作成作業)



装着前



装着後



(※2 コリブリシステムを活用したカバー装着例)

また、書籍・文書を保管する上で、理想的な環境（摂氏温度18～22度、相対湿度40～60%の空間）の実現に向けて温湿度測定器を使用し現状を把握し、後述する保存活動の方針に基づき、保存環境の見直しを進めます。

## 2. 資料修理保存活動における方針の策定

資料の長期に渡る保存については、平成29年度に結成された「将来展望検討プロジェクト」で、貴重資料の保存方法の見直しや資料の複製について検討を行いました。この内容に基づき、資料保存の専門家・有識者の意見を参考にし、印刷図書館として明確な資料保存に関する指針を取り決めていきます。所蔵している過去の座談会などの音声テープやビデオ資料、明治～昭和初期の貴重な資料（印刷雑誌含む）の保存方法の方向性を定め、実状に基づいた計画を考案し、保存箱の導入や資料修理など順次実行していくとともに、保存環境の見直しを図ります。

## 3. 図書館の外部向け広報活動の強化

現在、主に「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動を行っておりますが、年々維持会員数は減少を続けており、2010年度では149社718口、利用者860人だったのが、2019年度では108社590口、利用者302名になっています。また今年度におきましてはコロナの影響により、2月までの集計で154名となっております。十分な感染症予防対策を行いつつより積極的な外部向けの広報が必要となります。今後は率先して10団体および関連団体等が主催する研修会・セミナー参加者に対し印刷図書館のリーフレットの配布・紹介のお願い、維持会員向けにメールを利用した新刊案内等の配信、造本装幀コンクール等の受章作品の期間限定展示等、誘致活動の強化に努めてまいります。

## 4. 図書館と関連機関との連携強化

印刷図書館への関心・利用度を高めるために、日本印刷産業連合会および10団体、その他関連団体等のネットワークの提携・協力関係を構築し、図書館活動の活性化につなげていきます。

その一つとして、印刷図書館と「印刷博物館」で、「印刷関連専門図書館交流会」を開催しており、2021年度も継続して行います。今後はテーマを決めての勉強会・情報交換や関連機関への見学会などを計画しています。

以上